

おおい自然園

川の生きもの観察会



日時 平成29年7月22日（土）午前9時00分～11時30分

場所 酒匂川左岸 足柄紫水大橋周辺

講師 一寸木 肇 【おおい自然園園長】

参加者 26人

サポーター 4人

サポーター受講生 5人

職員 1人



これから、川の生きもの観察会を始めます。
その前に、大切な注意事項を話しますので、よく聞いてくださいね。

まず、川には淵という場所と瀬という場所があります。



淵（ふち）



瀬（せ）

淵は、昔から「淵にはカッパがすんでいるので近づくな。」と言われてきました。

流れはゆっくり見え、安全そうに見えますが、橋脚の周りは底がえぐられていてとても深くなっています。また、川の流れ方も、底のほうの流れ方が早いので、油断をすると足をすくわれて流されてしまいます。だから、昔の人は、淵に子どもが近づかないようにカッパがすんでいると言ったのですね。

一方、瀬は、深さは浅くて、さらさら流れているところで、水が流れる音がして水面が白くなっているような所です。流れの速さは上と下であまり変わりませんが水底は石がごろごろしているので、転ばないように気を付けてくださいね。



今日、お手伝いしてくれるサポーターを紹介します。よろしくお願いします。

気分が悪くなったときは、サポーターに伝えてくださいね。

生きものを探してみよう

それでは、これから酒匂川に入って生きものを探してみましよう。

生きものの取り方は、川岸で草がしげっている所に網を置いて、片方の足で草を踏みながら生きものを網に追い込んでくださいね。





とれた生きものを水槽に入れて観察してみま
しょう。



この魚は、アブラハヤです。
さわると、ヌメヌメしていてアブラが塗られている
みたに感じます。



このエビは、カワリヌマエビの仲間です。
今から、30年くらい前には、酒匂川にこのエビは
いませんでした。そのころは、ヌカエビがいました。
約20年前につりのえさとして中国から持ち込まれ
増えてしまい、逆にヌカエビの姿を見ることはなく
なりました。

日本に持ち込まれたこのエビの仲間の種類は1種類
だけでないので、カワリヌマエビの仲間といわれ、
いまだに正式な名前がついていません。



この魚は、シマドジョウです。
田んぼにいるドジョウとは体の模様が違いますね。

大井町には、ドジョウとシマドジョウ、ホトケドジ
ョウの3種類のドジョウがいます。

酒匂川にすんでいるのは、シマドジョウです。



シマトビケラの幼虫です。
川の石の下に石をかためて巣を作ります。

トビケラやカゲロウ、やご（トンボの幼虫）は
川虫と呼ばれています。

川虫は、川が汚れるとすめなくなり、そうなる
と川虫を食べる魚もすめなくなってしまいます。
川虫は川の環境のものさしです。



このカエルは、ツチガエルというカエルで背中
にたくさんのいぼがあります。



水槽にいる生きものを観察し、スケッチ
してみましょう。

今日、酒匂川の生きものを観察して、酒
匂川にはいろいろな生きものがいること
が分かりました。そして、これらの生きも
のがこれからもすめるように私たちは水
を汚さないようにしたいですね。

川の中をのぞいてみよう

最後に、酒匂川に潜って川の中をのぞいて
みましょう。
魚が見られるでしょうか。



川で生きものを見つけたり、遊ぶことはとても楽しいですね。

けれども、川で遊ぶときには、必ず大人の人と一緒に行ってください。